

平取町におけるアイヌ共用林野の設定について

共用林野とは、国が森林経営をする国有林野について、地元住民が共同して使用又は収益する権利を設定し、同一の国有林野を、国と地元住民が共に利用する制度です。普通共用林野や放牧共用林野などの種類があり、東北地方を中心に全国で約113万haの共用林野が設定されています（「国有林野の管理経営に関する法律」第18条に基づきます。）。

このうち、アイヌ共用林野については、平成31年に制定された「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）第16条の規定により、アイヌ文化振興等に利用するための林産物を共同で採取することについて、共用林野制度を適用したものです。

平取町と日高北部森林管理署が締結するアイヌ共用林野の設定契約では、伝統料理の食材となる山菜類、伝統的家屋であるチセの副資材となるしば、広葉樹の苗を育てるための種子、クチャチセ（仮設の狩小屋）を葺くトドマツの枝等を採取対象の林産物として設定しています。これら採取した林産物は、アイヌ文化を体験する事業やチセの維持・修繕等において有効に活用していく予定です。

本契約では、採取の対象となる林産物資源を保護し、持続的に利用していくため、約7,300haという広大な面積を設定しています。これは、平取町内の国有林野面積（41,876ha）の約17%にあたる広さで、これまでに設定されたアイヌ共用林野で最大の面積となります。



山菜を用いたオハウ

（写真はニリンソウ、ミツバ及びモミジガサを使用）



チセを葺くヨシを押さえるサクマ

（広葉樹のしばを利用）



アイヌ共用林野設定予定地の合同調査

（にぶたに湖右岸の国有林野）

（写真：（株）平取町アイヌ文化振興公社）